# 令和5年度　八幡浜市立江戸岡小学校評価報告書(後期)　R6年1月集計

【　評　価　者　】　保護者アンケート 児童93名分　教職員自己評価　10名　児童アンケート121名回答（全校児童128名）
【アンケート評価】　4：よくあてはまる　3：だいたいあてはまる　2：あまりあてはまらない　1：まったくあてはまらない　無：わからない、無回答
【　評　価　基　準　】　A：十分に達成されている(肯定率90％以上かつアンケート評価4評価35％以上を目安)　B：相当程度達成されている（肯定率75％以上）
C：やや不十分である（肯定率60％以上）　D：不十分である（肯定率60％未満）　※　肯定率：アンケート4・3を選んだ割合

| 項目 | 小項目 | 評価指標 | 評価 | | 評価資料 | アンケート結果 4 | 3 | 2 | 1 | 無 | 肯定率(%) | 評価4(%) | 学校による考察（○）・改善方策（◇） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ 教育目標・児童 | 教育目標の具現化 | 学校の教育目標「夢に向かって行動する子を育てる」を理解し、その実現に努めている。 | 前 | A | 教職員自己評価1 | 4 | 6 | 1 | 0 | | 91 | 36 | ○教職員が教育目標を常に意識し、目標達成に向かって共通理解を図りながら教育活動に取り組んだ成果が表れている。<br>◇教育目標を具現化するための教育活動を、継続して推進していく。 |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価1 | 4 | 6 | 0 | 0 | 0 | 100 | 40 | ○様々な場面で、教育目標や合言葉「げんきな声　ながれる汗　かがやく笑顔」を意識した教育活動を進めることができた。<br>◇児童に意識付けてきたことを次年度の教育活動につなげ、夢に向かって行動する子の育成に務める。 |
| | 学校生活 | 児童：学校は楽しい。<br>保護者：学校が楽しいと言っている。 | 前 | A | 児童アンケート1 | 69 | 42 | 5 | 3 | | 93 | 58 | ○児童の93％が学校生活を楽しく感じており良い傾向が見られるが、そう感じていない児童や保護者が一定数いる。<br>◇アンケートや教育相談、日頃の様子から児童理解を深め、家庭と連携して児童及び保護者の不安解消に努める。 |
| | | | | B | 保護者アンケート1 | 41 | 31 | 17 | 2 | 0 | 79 | 45 | |
| | | | 後 | B | 児童アンケート1 | 66 | 35 | 15 | 5 | | 83 | 55 | ○児童の評価がやや下がり、保護者の評価がやや上がった。学校があまり楽しくないと回答している児童が増加している。<br>◇アンケート結果に基づいた教育相談の機会を確保し、現在の児童の様子や気持ちを再度確認した上で、不安や悩みの解消に努める。 |
| | | | | B | 保護者アンケート1 | 39 | 41 | 10 | 3 | 0 | 86 | 42 | |
| Ⅱ 努力事項 | 1　学習指導 | 基礎・基本の定着を図り、分かる授業・楽しい授業づくりに努めている。<br>保護者：授業がよく分かると言っている。<br>児童：授業がよく分かる、楽しい。 | 前 | B | 教職員自己評価2 | 3 | 7 | 1 | 0 | | 91 | 27 | ○基礎・基本の定着に向けて全校体制で取り組むとともに、ICTを効果的に活用した授業実践を行ったことが、高い肯定率につながっている。<br>◇つまずきのある児童への支援をさらに工夫、充実させ、分かる・楽しい授業づくりに務める。 |
| | | | | C | 保護者アンケート2 | 17 | 45 | 23 | 2 | 1 | 71 | 20 | |
| | | | | A | 児童アンケート2 | 55 | 53 | 9 | 2 | | 91 | 46 | |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価2 | 5 | 5 | 0 | 0 | | 100 | 50 | ○教職員・児童・保護者ともに、評価が上がっている。日々の地道な実践により、分かる・楽しい授業の実践に努めている。<br>◇全体指導と個別指導をバランスよく行い、つまづきのある児童が理解を深められるようにしていく。 |
| | | | | C | 保護者アンケート2 | 24 | 41 | 19 | 5 | 3 | 73 | 27 | |
| | | | | A | 児童アンケート2 | 55 | 60 | 4 | 2 | | 95 | 45 | |
| | | 個に応じた指導を行い、児童一人一人を大切にした授業を行っている。 | 前 | A | 教職員自己評価3 | 4 | 6 | 0 | 1 | | 91 | 36 | ○児童の学力を適切に把握し、個に応じた柔軟な学習活動を展開することができた。少人数指導も効果的に取り入れている。<br>◇主体的・対話的な学習を推進し、一人一人のよさが生きるグループ学習等を積極的に取り入れる。 |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価3 | 5 | 5 | 0 | 0 | | 100 | 50 | ○一人一人の学習状況や内容の定着度を把握し、個に応じた指導の工夫に努めた。<br>◇授業展開や発問をさらに工夫したり、一人一人の学習が生きる場面を設定したりするなどして、教職員の指導力向上に努める。 |
| | | 家庭学習の習慣が身についている。<br>（低15～30分　中30～60分　高60～90分） | 前 | B | 教職員自己評価16 | 1 | 9 | 1 | 0 | | 91 | 9 | ○家庭学習の良い習慣が身についてきており、教職員が共通理解を図って発達段階に応じた指導を実施している。<br>◇家庭学習が十分でないと考えている保護者の割合が多いため、家庭と連携した取組を重視していく。 |
| | | | | D | 保護者アンケート3 | 19 | 35 | 30 | 7 | 0 | 59 | 21 | |
| | | | | A | 児童アンケート3 | 56 | 57 | 5 | 1 | | 95 | 47 | |
| | | | 後 | B | 教職員自己評価16 | 2 | 7 | 1 | 0 | | 90 | 20 | ○前期と比較して大きな変化は見られない。保護者の立場からは、学習習慣が十分身に付いていないと感じていることが伺える。<br>◇課題の内容や出し方を工夫し、家庭と連携してそれぞれの児童の取り組み方を把握しながら、学習習慣の定着に努める。 |
| | | | | C | 保護者アンケート3 | 18 | 40 | 25 | 10 | 0 | 62 | 19 | |
| | | | | A | 児童アンケート3 | 62 | 49 | 6 | 4 | | 92 | 51 | |
| | | 主体的・対話的で深い学びの充実に努め、自ら学び自ら考える力の育成に努める。 | 前 | B | 教職員自己評価4 | 1 | 9 | 1 | 0 | | 91 | 9 | ○各教科の授業の中で、主体的・対話的な学びの場を効果的に取り入れていることで、高い肯定率となっている。<br>◇自分の考えを書く活動に抵抗を持つ児童が多いため、考えを書く活動を充実させていく。 |
| | | | 後 | B | 教職員自己評価4 | 2 | 6 | 2 | 0 | | 80 | 20 | ○前期よりも肯定率が低下している。教職員自身は真摯に取り組んでいるものの、まだ十分ではないと感じている面がある。<br>◇教職員間で課題を共有した上で、主体的・対話的に学習する場面を積極的に取り入れる。 |
| | 2　現職教育 | 資質・能力の向上を目指したOJT研修の推進と専門的、実践的研修の充実に努める。 | 前 | B | 教職員自己評価5 | 0 | 11 | 0 | 0 | | 100 | 0 | ○各教職員が、それぞれの経験や得意分野を生かしながら、指導や支援をする関係が築けている。<br>◇経験豊富な教職員の力を生かせる研修を計画・実践していく。 |
| | | | 後 | B | 教職員自己評価5 | 1 | 9 | 0 | 0 | | 100 | 10 | ○年間を通じて、計画的な教職員研修に努めた。日々の教育的課題に対しても教職員間で連携して対応した。<br>◇一年間の研修成果を評価した上で、次年度の研修がさらに充実するよう計画立案を進める。 |
| | 3　道徳教育 | 道徳科の充実に努め、よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に努める。 | 前 | B | 教職員自己評価6 | 2 | 8 | 1 | 0 | | 91 | 18 | ○発達段階に応じた系統的な道徳科の授業を実践しており、道徳科を中心として児童の道徳性を育てることができている。<br>◇他の教育活動との関連を重視して、道徳的実践力をさらに高めていく。 |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価6 | 4 | 6 | 0 | 0 | | 100 | 40 | ○年間指導計画を基に道徳科の授業の充実に取り組み、児童の発達段階に応じた道徳性の涵養に努めた。<br>◇年間計画の見直しや指導内容の評価を行い、より充実した取組を目指す。 |
| | 4　特別活動 | 異年齢集団活動を生かした、温かい人間関係や連帯感を養う。 | 前 | B | 教職員自己評価7 | 3 | 6 | 2 | 0 | | 82 | 27 | ○なかよし班活動によって、学年を超えたよりよい人間関係作りが進められている。<br>◇高学年のリーダーシップを育成、発揮させ、引き続き温かい人間関係作りに取り組む。 |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価7 | 4 | 6 | 0 | 0 | | 100 | 40 | ○高学年児童が低学年児童を手助けする様子がよく見られ、良い人間関係を築くことができた。<br>◇高学年を中心として、みんなで学校生活をより良くしていこうとする主体的な集団づくりを継続して進める。 |
| | 5　生徒指導 | 情報交換を密にし、全教職員の共通理解を図り、いじめ･不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努める。 | 前 | A | 教職員自己評価8 | 5 | 5 | 0 | 1 | | 91 | 45 | ○教職員間の情報交換を密にすることで、一人一人の児童の実態をしっかりと把握し、指導や支援に当たることができてる。<br>◇やわたはま元気ノートなどの新たな取組を効果的に活用して、様々な角度から児童の実態を把握することに努める。 |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価8 | 7 | 3 | 0 | 0 | | 100 | 70 | ○児童の様子や出欠状況を全教職員で共有し、家庭と連携していじめや不登校の未然防止に努めた。<br>◇今後も教職員間で常に情報を共有し合い、家庭や関係諸機関との連携を図って早期の対応に努めていく。 |
| | | 児童はきまりやルールを守ることができる。 | 前 | C | 教職員自己評価19 | 0 | 7 | 4 | 0 | | 64 | 0 | ○ほとんどの児童はルールを守ることができているが、規範意識に欠ける児童の様子も見られる。<br>◇指導における教職員の共通理解と連携を深め、根気強く指導を継続していく。 |
| | | | 後 | C | 教職員自己評価19 | 0 | 7 | 3 | 0 | | 70 | 0 | ○きまりやルールが守れていない事例がいくつかあったため、早期の対応や指導に努めた。<br>◇問題となった事例が続かないよう、児童の様子を見守りながら指導を継続していく。 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅱ努力事項 | 5 生徒指導 | 児童は気持ちのよいあいさつができる。 | 前 | B | 教職員自己評価17 | 1 | 7 | 2 | 0 | | 80 | 10 | ○気持ちのよいあいさつができる児童がいるものの、教職員・保護者・児童ともに不十分と感じている実態が見られる。<br>◇あいさつの大切さについて継続して児童に伝えていくとともに、教職員や保護者、地域が協力してあいさつのあふれる環境を築いていく。 |
| | | | | C | 保護者アンケート4 | 22 | 37 | 27 | 2 | 2 | 67 | 25 | |
| | | | | B | 児童アンケート4 | 51 | 52 | 14 | 2 | | 87 | 43 | |
| | | | 後 | C | 教職員自己評価17 | 2 | 5 | 3 | 0 | | 70 | 20 | ○児童自身はできていると評価しているが、保護者や教職員の評価は低い。。朝のあいさつに元気がない様子が見られる。<br>◇学校全体で気持ちの良いあいさつをしようという雰囲気を醸成できるよう、継続して取り組む。 |
| | | | | C | 保護者アンケート4 | 26 | 34 | 25 | 6 | 2 | 66 | 29 | |
| | | | | B | 児童アンケート4 | 54 | 47 | 14 | 6 | | 83 | 45 | |
| | | 児童は正しい言葉遣いができる。 | 前 | C | 教職員自己評価18 | 0 | 8 | 3 | 0 | | 73 | 0 | ○多くの児童は正しい言葉遣いができるが、できていない児童の割合も高い。地域や家庭での言葉遣いにも課題があると感じられる。<br>◇学校生活全般で言葉の使い方や気持ちの表し方への理解を深めさせるとともに、その場その場の指導で児童に気付かせられるようにする。 |
| | | | | C | 保護者アンケート5 | 16 | 41 | 30 | 1 | 1 | 65 | 18 | |
| | | | | B | 児童アンケート5 | 48 | 54 | 14 | 3 | | 86 | 40 | |
| | | | 後 | C | 教職員自己評価18 | 0 | 7 | 3 | 0 | | 70 | 0 | ○前期同様、言葉遣いに関しては課題が残った。児童自身の評価も前期に比べ低くなっている。<br>◇相手の気持ちを考えた思いやりのある言葉が増えるよう、それぞれの場面で指導や意識付けを図る。 |
| | | | | D | 保護者アンケート5 | 15 | 40 | 30 | 8 | 0 | 59 | 16 | |
| | | | | B | 児童アンケート5 | 41 | 57 | 21 | 2 | | 81 | 34 | |
| | 6 人権・同和教育 | いじめや差別のない集団づくりができている。 | 前 | B | 教職員自己評価9 | 2 | 8 | 1 | 0 | | 91 | 18 | ○今年度はいじめを認知していない。しかし、学校生活に不安を感じている児童や保護者がいる様子が見られる。<br>◇お互いが認め合い、支え合う集団づくりを継続して進めることで、いじめや差別をしない、させない雰囲気を作っていく。 |
| | | | | C | 保護者アンケート9 | 32 | 30 | 23 | 3 | 1 | 70 | 36 | |
| | | | | B | 児童アンケート6 | 59 | 47 | 11 | 2 | | 89 | 50 | |
| | | | 後 | B | 教職員自己評価9 | 3 | 7 | 0 | 0 | | 100 | 30 | ○いじめは認知していないが、児童の評価が低下していることから、人間関係で不安を抱えている児童の存在が見受けられる。<br>◇人権・同和教育のより一層の充実を図るとともに、児童と教職員が、生活の中の課題に向き合いながら解決を図っていく。 |
| | | | | B | 保護者アンケート9 | 32 | 38 | 18 | 3 | 2 | 77 | 35 | |
| | | | | B | 児童アンケート6 | 55 | 43 | 19 | 4 | | 81 | 45 | |
| | 7 特別支援教育 | 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実に努めるとともに、相談体制の充実に努める。 | 前 | B | 教職員自己評価10 | 1 | 9 | 1 | 0 | | 91 | 9 | ○支援の必要な児童についての情報交換を密にすることで、校内での支援体制を整えることができている。<br>◇生活支援員や関係諸機関との連携を深め、役割分担を明確にして適切な支援ができるようにする。 |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価10 | 0 | 6 | 0 | 0 | | 100 | 0 | ○一人一人の特性やニーズに応じた指導と支援に努めた。生活支援員とも連携し、個に応じたサポート体制を構築した。<br>◇次年度の指導体制について協議し、一人一人に応じた指導、支援の継続が円滑に行えるようにする。 |
| | 8 健康、安全教育 | 子どもは早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。 | 前 | C | 保護者アンケート7 | 27 | 35 | 21 | 6 | 2 | 70 | 30 | ○多くの家庭が就寝時刻を決め実践できているが、早く寝る習慣が十分に身についていない児童の割合も高い。<br>◇児童への指導継続とともに、保護者への啓発や習慣付けへの協力が必要である。 |
| | | | 後 | C | 保護者アンケート7 | 33 | 29 | 22 | 7 | 2 | 68 | 36 | ○就寝時刻が遅くなっている児童が見られ、それが早起きや朝食の摂取にも影響しているように思われる。<br>◇引き続き家庭への啓発を行い、連携して適切な生活リズムの定着を図る。 |
| | | 子どもはルールを守ってゲームやインターネットを使用している。 | 前 | C | 保護者アンケート8 | 23 | 35 | 25 | 7 | 0 | 64 | 26 | ○家庭で決められたルールを守って正しく使用している児童がいる反面、使用時間が長い児童の割合も高い。<br>◇児童がネット依存の危険性を学ぶ機会を多く設けるとともに、学校と家庭が連携して児童の自制心を育てていく。 |
| | | | 後 | D | 保護者アンケート8 | 19 | 31 | 32 | 10 | 1 | 54 | 21 | ○利用時間が多い児童が見られる。ルールが決められていなかったり、夢中になると守れなかったりする実態がある。<br>◇利用状況の把握が難しい面があるため、児童が夢中になっているコンテンツを把握しながら家庭と連携して対応していく。 |
| | 9 保・幼・中、家庭・地域社会との連携 | ブロックやPTA、地区公民館、「おやじの会」等との連携を図り、開かれた学校づくりに努める。 | 前 | B | 教職員自己評価12 | 3 | 7 | 2 | 0 | | 83 | 25 | ○コロナ禍による制限が緩和され、PTAや公民館の行事等、様々な活動を実施することができた。<br>◇持続可能で効果的な連携体制が築けるよう、新たな取組や従来の取組の改善を積極的に図っていく。 |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価12 | 5 | 5 | 0 | 0 | | 100 | 50 | ○コロナ禍前の状況に戻った1年間であり、様々な行事や取組を通じて関係機関との連携を深められた。<br>◇中学校再編やPTA会員数の減少などを考慮して、ブロックやPTA活動の見直しを進めていく。 |
| | | 学校は子どものことについて気軽に相談できる。 | 前 | C | 保護者アンケート13 | 33 | 33 | 20 | 4 | 1 | 73 | 37 | ○教職員は、保護者からの連絡相談に真摯に対応しているが、保護者にとっては相談しにくい印象があることがうかがえる。<br>◇学校へ相談しにくい印象を改善できるよう、保護者との連携をより深めていく。 |
| | | | 後 | C | 保護者アンケート13 | 39 | 28 | 21 | 3 | 2 | 74 | 43 | ○保護者との連携を密にできるよう努めたことで、若干ではあるが、前期よりも評価が良くなっている。<br>◇保護者からの相談や要望に真摯に対応することを心掛け、相談しやすい開かれた学校づくりを進める。 |
| | | 学校はホームページや便り等で、学校の様子を知らせている。 | 前 | B | 保護者アンケート10 | 33 | 42 | 16 | 0 | 0 | 82 | 36 | ○学校・学級からの便り、HP等、外部向けの情報発信を積極的に行っている。<br>◇学校と保護者・地域をつなぐ手段の一つとして、今後も発信方法を工夫して充実を図る。 |
| | | | 後 | B | 保護者アンケート10 | 44 | 38 | 10 | 0 | 0 | 89 | 48 | ○ホームページの更新と学校便りの発行を定期的に行い、情報発信に努めた。<br>◇学校と保護者、地域とをつなぐ取組の一つとして、内容の工夫と充実を図る。 |
| | 10 人的管理 | 風通しのよい人間関係の構築と健康管理の推進に努め、切磋琢磨できるめりはりのある職場づくりに努める。 | 前 | B | 教職員自己評価13 | 3 | 7 | 0 | 1 | | 91 | 27 | ○教職員で協力し合って行事や諸活動に取り組み、支持的風土が醸成されている。<br>◇教職員の時間外勤務が長くなりがちなため、身近な業務改善に取り組み、心身の健康の保持増進を図る。 |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価13 | 6 | 3 | 1 | 0 | | 90 | 60 | ○様々な課題について相談し合ったり、協力し合ったりしながら学校運営をすることができた。<br>◇今後も、教職員間の連携を深め、業務の効率化や諸活動の精選を図り、働き方改革も進めていく。 |
| | 11 物的管理 | 豊かな心を育む、潤いのある教育環境づくりに努める。<br>保護者：学校の施設・設備はよく整備されている。 | 前 | B | 教職員自己評価14 | 2 | 8 | 1 | 0 | | 91 | 18 | ○教育環境は充実し、整備されているが、経年劣化により修繕の必要な箇所も増えてきている。<br>◇補修の必要な箇所については、予算との兼ね合いを考えて対応したり、教育委員会に修繕を要望したりしながら、順次改善していく。 |
| | | | | B | 保護者アンケート12 | 30 | 49 | 10 | 1 | 1 | 88 | 33 | |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価14 | 4 | 6 | 0 | 0 | | 100 | 40 | ○修繕の必要な箇所については、順次対応している。未修繕の箇所も、来年度の予算要求を済ませている。<br>◇毎月の安全点検を基に危険箇所や修繕箇所を把握し、早期の改善に努める。 |
| | | | | B | 保護者アンケート12 | 36 | 44 | 12 | 0 | 1 | 87 | 39 | |
| | | 子どもの安全指導や事故防止に努めている。 | 前 | A | 教職員自己評価11 | 5 | 5 | 0 | 1 | | 91 | 45 | ○定期的な安全点検を実施し、危険箇所を特定して子どもの安全確保や事故防止に努めた。<br>◇全教職員が常に危機管理の意識を高め、今後も複数の目で危険の未然防止に努める。 |
| | | | | B | 保護者アンケート11 | 32 | 40 | 15 | 2 | 1 | 81 | 36 | |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価11 | 7 | 3 | 0 | 0 | | 100 | 70 | ○比較的高い評価だが、保護者の立場では十分でないと感じている面がある。特に校外生活での安全面は注意が必要である。<br>◇郊外における安全指導を徹底し、保護者や地域と協力しながら児童の安全を守っていく。 |
| | | | | B | 保護者アンケート11 | 41 | 38 | 10 | 4 | 0 | 85 | 44 | |
| | 12 事務管理 | 適正かつ効率的な事務処理・文書管理に努め、情報等の適切な処理・管理に努める。 | 前 | B | 教職員自己評価15 | 3 | 7 | 0 | 1 | | 91 | 27 | ○事務処理・情報管理等が適切・迅速に行えるよう全校で取り組めている。<br>◇文書処理・情報処理に複数人で関わり、漏れがないように努める。 |
| | | | 後 | A | 教職員自己評価15 | 5 | 4 | 1 | 0 | | 90 | 50 | ○事務処理に滞りがないよう、複数人で確認、点検をした。<br>◇新公務用PCの導入に伴う新しいシステムの活用を推進する。 |